

## ジェンダーフォーラム2023年度活動報告

### 公開講演会



- 演 題 フェミニスト経済学とその最新課題：  
金融排除／包摂のジェンダー分析
- 講 師 足立 眞理子氏（お茶の水女子大学名誉教授）
- 司 会 太田 麻希子  
（ジェンダーフォーラム所長、本学社会学部准教授）
- 日 時 2023年11月30日（木）18:30～20:00
- 会 場 ZOOMウェビナー
- 参加人数 122名

### ジェンダーセッション



- 第89回ジェンダーセッション
- 演 題 歴史と政治経済学の視点からみる中国の「農嫁女問題」
- 講 師 李 亜姣氏  
（日本学術振興会外国人特別研究員（東京大学社会科学研究所））
- 日 時 2023年7月27日（木）18:00～19:30
- 会 場 池袋キャンパス4号館別棟4151教室
- 参加人数 32名



- 第90回ジェンダーセッション
- 演 題 クィア・フェミニズム批評とメンズリブ批評の対話
- 講 師 水上 文氏（文筆家）／杉田 俊介氏（批評家）
- 日 時 2023年10月7日（土）14:00～15:30
- 会 場 池袋キャンパス10号館X305教室、およびZoom ウェビナー
- 参加人数 139名



- 第91回ジェンダーセッション
- 演 題 アフター・メルケルのジェンダー平等推進：  
ドイツのジェンダー関連施策の最新報告
- 講 師 佐野 敦子氏  
（立教大学ジェンダーフォーラム事務局教育研究嘱託）
- 日 時 2023年12月21日（木）18:00～19:30
- 会 場 池袋キャンパス本館1203教室、およびZoom ウェビナー
- 参加人数 109名

## 2022年度 ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金

## (A) ジェンダーフォーラム論文賞

該当者なし

## (B) 活動・研究助成金

氏名 田中 美咲子  
所属 文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程2年  
タイトル 谷崎潤一郎の戦中・戦後作品における女性表象  
支給金 70,000円

氏名 鈴木 紗和  
所属 文学部文学科文芸・思想専修4年  
タイトル 身体の性別化、そのプロセスの内部  
——セクシュアリティの「攪乱」から「優しい去勢」へ  
支給金 50,000円

## 全学共通カリキュラム主題別B (池袋)

## 授業内容

科目名：グローバル資本主義とジェンダー

担当者：大野 聖良

コーディネーター：太田 麻希子（ジェンダーフォーラム所長、本学社会学部准教授）

授業の目標： グローバル・サウスの国々の成り立ち、社会・経済・文化の基礎知識、ジェンダーに関わる重要現象、新興国化やパンデミックの影響について学ぶ。対象地は東南アジア、南アジア、オセアニアである。各地域のコンテクストを踏まえたジェンダー課題・事象、資本や国家の論理への回収に抗ってきたフェミニスト社会・経済理論の流れを学ぶことで、ジェンダーの視点からの他者理解を促すとともに、日本や自らの周囲のジェンダー課題についてより大きな文脈で省察するための視座を提供する。

開講学期 秋学期

単位数 2単位

授業内容

- 1 ガイダンス
- 2 グローバル経済とフェミニスト分析①
- 3 グローバル経済とフェミニスト分析②
- 4 東南アジアのジェンダー①
- 5 東南アジアのジェンダー②
- 6 東南アジアのジェンダー③
- 7 東南アジアのジェンダー④

- 8 オセアニアのジェンダー①
- 9 オセアニアのジェンダー②
- 10 南アジアのジェンダー①
- 11 南アジアのジェンダー②
- 12 グローバル経済における日本とジェンダー①
- 13 グローバル経済における日本とジェンダー②
- 14 まとめ

## コーヒーアワー

日 時	2023年4月24日 (月)、5月29日 (月)、6月22日 (木)、9月28日 (木)、 10月26日 (木)、12月7日 (木)、2024年1月18日 (木)
会 場	12号館第2会議室、16号館第2会議室、ジェンダーフォーラム
参加人数	延べ65名

## 共催イベント

テ ー マ	性売買経験当事者ネットワーク〈ムンチ〉『無限発話』出版記念トークコンサート ——買われた私たちが語る性売買の現場——
主 催	「性売買を考える会——当事者ととともに」(代表：小野沢あかね)、科研費基盤研究 (C) 「朝鮮半島の植民地遊廓の形成・展開・変容～解放後韓国への連続／非連続に注目して～」(代表：金富子 (東京外国語大学名誉教授))、梨の木舎
共 催	ジェンダーフォーラム
講 師	チャル氏 (性売買経験当事者ネットワーク〈ムンチ〉運営委員長)、ジウム氏 (同創立メンバー)、チン氏 (同政策チーム長)、ムム氏 (同メンバー)、ベクチ氏 (同メンバー)
日 時	2023年7月8日 (土) 13:30～17:00
会 場	池袋キャンパス 8号館 8101 教室

## 2023年度立教大学ジェンダーフォーラム運営委員一覧

所 長	太田 麻希子	社会学部現代文化学科
副 所 長	跡部 千慧	コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科
運営委員	青木 佑馬	教務部独立研究科事務室
運営委員	市川 珠美	学生部学生課
運営委員	小川 龍秀	情報企画室
所 員	片上 平二郎	社会学部社会学科
運営委員	金 儒振	教務部教務事務センター
所 員	倉本 由紀子	21世紀社会デザイン研究科
所 員	佐々木 正徳	外国語教育研究センター
所 員	菅森 朝子	社会学部メディア社会学科
所 員	ゾンターク ミラ	文学部キリスト教学科
所 員	浜崎 桂子	異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科
運営委員	杳田 美佳	教務部学校・社会教育講座事務室
所 員	横山 麻衣	社会学部メディア社会学科
事 務 局	片岡 佑介	教育研究嘱託
	横山 美和	教育研究嘱託 (～4月)
	佐野 敦子	教育研究嘱託 (6月～)

## 編集規定

(1999.9.20.委員会決定、2014.2.25.委員会改訂)

1. 本誌は、立教大学ジェンダーフォーラムの機関誌であり、年1回発行する。
2. 本誌は、原則としてジェンダーに関する研究の発表に充てる。
3. 本誌に「研究論文」、「研究ノート」、「書評」、「文献紹介」、「ジェンダーフォーラム活動記録」、「その他」、等の各欄を設ける。
4. 本誌の編集は、ジェンダーフォーラム運営委員からなる年報編集委員会によって行われる。
5. 掲載する論文には、「投稿論文」と年報編集委員会からの「依頼論文」がある。投稿論文には①「ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金論文」(以下、「ミッチェル奨学金論文」)と②「一般投稿論文」の二種類がある。なお、投稿論文の採否は、年報編集委員会が決定する。
6. 本誌の年報編集委員会は、ジェンダーフォーラム事務局に置く。  
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 6号館1階  
立教大学 ジェンダーフォーラム  
Tel/Fax : 03-3985-2307  
E-mail : gender@rikkyo.ac.jp

## 投稿規定

(1999.9.20.委員会決定、2014.2.25.委員会改訂、2018.2.2.委員会改訂)

1. 本誌に投稿できる者は、立教大学構成員、もしくは年報編集委員会が認めた者とする。ただし、「ミッチェル奨学金論文」に関しては、投稿資格を学部学生・大学院学生の個人または団体とする。
2. 本誌に発表する論文等は、いずれも他に未発表のものに限る。
3. 投稿論文は、複数のレフェリーによる査読の上、採否を決する。なお、原稿等は採否に関わらず返却しない。
4. 原稿は、所定の執筆要項に従うこととする。
5. 本誌に掲載された投稿論文の著作権はジェンダーフォーラムに帰属する。掲載論文は、立教大学学術リポジトリ上で電子公開される。
6. 「ミッチェル奨学金論文」に関しては、毎年7月末に公示される募集要項に従って投稿すること。
7. 「一般投稿論文」に関しては、毎年10月末までにジェンダーフォーラム事務局にある所定用紙に記入のうえ申し込みをすること。投稿の締切は11月末日とし、原稿原本の他にコピー2部を添えて年報編集委員会に送付すること。

## 執筆要項

1. 論文と研究ノート・書評および文献紹介、イベント報告（ジェンダーセッションなど）の分量は原則として次のとおりにする。
  - (1) 論文は、図表、註、文献を含めて20,000字（400字詰め原稿用紙に換算して50枚）以内とする。
  - (2) 研究ノートは、図表、註、文献を含めて12,000字（30枚）以内とする。
  - (3) 書評および文献紹介は、図表、註、文献を含めて4,000字（10枚）以内で年報編集委員会が依頼する際に指定する。

(4) イベント報告は、図表、註、文献を含めて4,400字（11枚）以内とする。

\*図表については、大きさに応じて、1/6頁大≒270字相当、1/2頁大≒800字相当と字数換算する。

2. 原稿は横書きとする。A4判用紙に40字×40行で印字したワープロ原稿で提出し、電子媒体も添付する。
3. 文体は「である調」、文字は新かなづかい、当用漢字を原則とする。
4. 論文の構成は、タイトル、執筆者名（所属も含む）、本文、註、文献、キーワード（3～5ヶ）の順とする。
5. 本文中の見出しは、以下のように統一する。
  1. 2. 3. …「章」に相当
  - (1) (2) (3) …「節」に相当
  - (a) (b) (c) …「項」に相当
6. 註については、本文中の該当箇所の右肩に（1）（2）（3）と番号順に表示し、註自体は本文のあとにまとめて掲載する。
7. 文中で使用する引用文献は、本文の該当箇所に〔執筆者名（姓のみ）、西暦発行年：引用ページ〕を示し、タイトル等は後の参考文献のところに一括して表示する。
8. 参考文献は、著者名、西暦発行年、題名、掲載雑誌、出版社名の順に記述する。
9. 図表は、本文に出てくる順に「図－1」「表－1」と番号をふり、本文中の該当箇所にあらかじめ挿入するか、該当箇所を指示すること。
10. 原稿には表紙を付け、①タイトル、②執筆者名（ふりがなとローマ字表記を併記）、③執筆者肩書き、④連絡先（住所・電話番号・Eメールアドレス）を記入する。

本号の編集を担当した片上です。『ジェンダーフォーラム年報』もすでに25号を数えます。改めて考えてみますと、四半世紀という長い年月を歩んできたことにおどろきます。この期間中、社会全体や学問の世界において、ジェンダーに関する取り扱いが大きく変わってきたことを実感します。ジェンダーフォーラムも変革すべき部分は変えながら、同時に変えてはならない価値を守りながら活動を続けてきました。そうしたフォーラムの活動を伝えるために、今後も「年報」の発行を続けていく意向です。

ジェンダーフォーラムの年報は、その性格上、さまざまな学問分野や狭義の学术界を超えたさまざまな立場の方々にご協力いただく形で制作されています。ただ、それゆえに書式や形式について共通のものを設定しようとする、折衷的になりがちな問題点があります。また、査読などの審査についても、専門性の偏りから対応に一定の難しさが伴っています。今後、さらなる展開を遂げるためには、これまでの経験を活かしつつ、新たな

微調整を加えていく時期かもしれないと考え始めてもいます。これまで講読していただいた方々、論文を投稿していただいた方々のご意見なども伺いながら、より良い媒体となるようにしていきたいと思っておりますので、是非、ご協力をよろしくお願いいたします。

など書きつつも、実はこの編集後記の〆切をすっかり忘れておりました。編集としては事務局にご迷惑をおかけするばかりではありまして……。実際の作業の多くは、ジェンダーフォーラムの事務局のお二人や白峰社さまのお力で成り立っているものであり、ここに改めて感謝の意を伝えさせていただきたく思います。

ジェンダーフォーラムの活動も年報の内容も、今後もさらに魅力的なものになるようにしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

編集長 片上平二郎

# 立教大学ジェンダーフォーラムのご案内

ジェンダーフォーラムは、1998年に閉館した女子寮ミッチェル館の精神を受け継いで設立されました。

「常識にとらわれず、性差やセクシュアリティ(性自認・性的指向など)についての問題を本音で語り合い、考える場、それがジェンダーフォーラムです。ジェンダー(gender)とは、社会や文化の「常識」にしたがってつくられた性差のこと。「女/男らしさ」「女/男役割」や異性愛を「あたりまえ」とする考え方もそのひとつです。「常識」「あたりまえ」とみなされている性をめぐる社会通念・制度・規範には、一人ひとりの個性的なあり方を抑圧するものが少なくありません。ジェンダーフォーラムはジェンダーについての教育・研究拠点として、1998年に誕生しました。ジェンダーに関する身近な違和感をもっている方から学識を深めたい方まで、様々な人に広く開かれています。より多くの人々が、自分自身の問題として社会生活における「ジェンダー」に気づき、理解し、考える契機となるよう、公開講演会やジェンダーセッション、コーヒーアワーなどを開催しています。



## 6号館1階 ジェンダーフォーラム

開室日：毎週月曜日～金曜日

開室時間：10:00～16:00

場所：立教大学池袋キャンパス

6号館1階

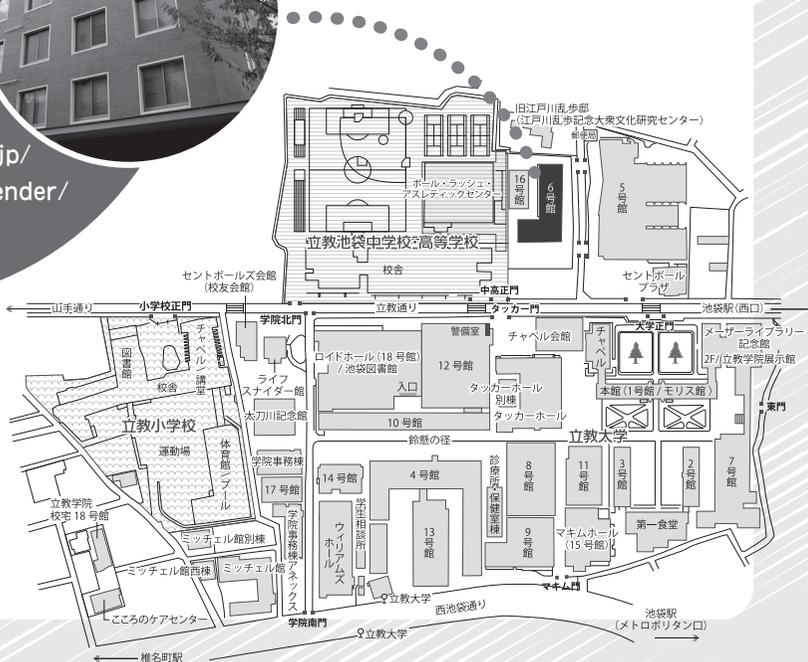
TEL：03-3985-2307

E-mail：gender@rikkyo.ac.jp

URL：https://www.rikkyo.ac.jp/  
research/institute/gender/



●詳細は、  
10号館通路のジェンダーフォーラム掲示板  
またはHPをご覧ください。



## 立教大学ジェンダーフォーラムロゴと本誌表紙について

ジェンダーフォーラムは、1998年に閉館した女子寮ミッチェル館の精神を受け継いで設立されました。2018年に20周年を迎えるに際して、新たに作られたこのロゴは、フォーラム設立時から象徴的に使用されてきた“Gem”にちなみ、いろいろな形や種類の原石 (gemstone) をイメージしています。同時にリニューアルした本年報表紙・裏表紙では、ジェンダーフォーラムに集まってくる多様な人たち (原石) や考えや言葉が各々の光を放ち、その光がぶつかり反射し新たな軌跡を生み出していく様が表現されています。

Gem：命名時にはミッチェル館の“M”にちなんだものでした (Gender Encountering in Mitchell)。現在はさらなる発展を企図して、ジェンダー平等の実現を目指すことを意味する Gender Equality in the Making とし、ニューズレター、メーリングリストの名前として使用しています。

## About Rikkyo University Gender Forum

Gender Forum was established to revitalize the spirit of Mitchell Hall, Rikkyo's dormitory for women that was permanently closed in 1998. Social conventions, systems, and norms that construct gender often restrict people's way of life. Gender Forum is a home for people who attempt to discuss and consider gender issues. Our task is to encourage various individuals to participate in open debates on gender and enhance gender sensibility of the school communities.

ISSN 2185-3789

---

## 立教大学ジェンダーフォーラム年報 第25号 RIKKYO UNIVERSITY GENDER FORUM ANNUAL REPORT

2024年3月発行

発行責任者 太田 麻希子

発行所 立教大学ジェンダーフォーラム  
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1  
Tel: 03-3985-2307

E-Mail: [gender@rikkyo.ac.jp](mailto:gender@rikkyo.ac.jp)

URL: <https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/>

印刷所 株式会社 白峰社

ロゴ・表紙デザイン 中村雪子

(非売品)

